



令和6年度興国寺城跡発掘調査 説明資料

<興国寺城跡の概要>

興国寺城は、北条早雲(伊勢宗瑞)の旗揚げの城として知られています。興国寺城の南を通っていた当時の主要街道である根方街道は、箱根や足柄へ向かう道にもつながっており、これを押さえるという戦略的意味は、戦国時代において極めて高かったのでしょう。

そして早雲旗揚げ以後も、興国寺城の重要性は江戸時代初期まで失われることはなく、今川氏、後北条氏、武田氏、徳川氏、豊臣方の中村一氏の家臣である河毛重次、そして関ヶ原の戦い以後には、徳川氏の家臣である天野康景など、120年間でなんと16人以上の城主・城代が入替わりました。発掘調査でも15世紀後半から17世紀初頭までの遺物が出土しており、ここが長期にわたって利用されていたとする文献記録とも一致します。

<令和6年度の成果>

現在、興国寺城跡では整備基本計画の策定を進めています。その中で伝天守台の周辺は整備の重点地点であることから、設計に向けた発掘調査を実施しています。

令和2年度には現在の地面の下にも石が残存していることが判明しました。そのため、さらなる解明に向けて、令和5年度に石垣の東端を調査し、令和6年度には西端の調査を行っています。

今年度の調査目的は、①裏込石と呼ばれる石垣の背面に入れる小さな石がどの高さまで残存しているのか、②石垣の西端がどのように造られているのかの2点について調べています。

調査の結果、裏込石は現在の伝天守台の平坦面付近まで残っていることがわかり、さらに石垣西端も良好に残存していたため、石垣全体の大きさは幅約20m、高さは約5mと確定されました。

さらに端の石の処理は崩れないように土壘に埋め込まれていること、さらに石垣を造る前に穴を掘って石を詰め込んで基礎を造っていることもわかりました。地面に埋められている石は埋め戻されて見えなくなってしまうことから、見えるところと比べて小ぶりの石が使われています。

興国寺城跡の石垣は、豊臣秀吉が天下統一した以後に築かれたと考えられるものです。県内の同時期の石垣は特に重要な城にしか施されておらず、興国寺城跡の重要性を語る上でも貴重な資料といえます。



伝天守台石垣西端の様子(2024年11月18日撮影)
※上段の小さな石が裏込石

西暦	和暦	大名	城主・城代	出来事
1487	文明 19			伊勢宗瑞、室町將軍足利義尚の申次衆に名が見える。
1487	長享元	今川・北条	伊勢宗瑞	伊勢宗瑞、今川氏親を当主に据え、富士郡下方十二郷と興国寺城を与えられる。
1491	延徳 3			堀越公方足利政知が没す。茶々丸が義母円満院と義弟潤童子を殺害。
1493	明応 2			伊勢宗瑞、伊豆国堀越御所に足利茶々丸を攻め、伊豆平定を開始。京都では明応の政変が起きる。
1498	明応 7			伊勢宗瑞、伊豆平定がなり、興国寺城から葦山城へ本拠を移す。
1515	永正 12			伊勢宗瑞、沼津妙海寺に諸公事等を免除する。
1537	天文 6			今川義元と武田信虎が同盟。義元、信虎の娘を正室に迎える。
1537	天文 6	北条		北条氏綱、河東侵攻。「(第1次)河東一乱」勃発。河東を北条が制圧。
			(青地飛騨)	(興国寺城主青地飛騨、武田に降伏する)
				(武田信虎、娘の化粧田として今川義元に興国寺城を渡す。)
1545	天文 14			今川義元・武田晴信、河東に侵攻し吉原を攻める。(第2次河東一乱)
1545	天文 14	今川		武田晴信、吉原を落とし、千本松、岡宮に陣をはる。河東は今川の勢力下となる。
1549	天文 18			今川義元、普請のため興国寺を真如寺に移し、寺領を安堵する。(興国寺城の普請)
1550	天文 19			今川義元、興国寺城の普請を検分する。
1552	天文 21			今川義元、秋山三郎の興国寺城普請の功を褒め、棟別銭などを免除し、高橋修理の同心とする(興国寺城普請)。
1552	天文 21			今川義元の娘が武田義信に嫁ぎ、翌年武田信玄娘と北条氏政の婚儀が整う。さらに翌年、北条氏康娘が今川氏真に嫁ぐ(甲相駿三国同盟なる)。
(1554)	(天文 23)			(北条氏康・氏政、河東に侵攻し、浮島ヶ原に陣をはる。)
1560	永禄 3			桶狭間の戦い。今川義元戦死。
1560	永禄 3			今川氏真、松井宗信の興国寺口での戦功や桶狭間での討ち死を子八郎に対して賞す。
1568	永禄 11	北条		武田信玄が駿河侵攻。北条氏康も駿河に進出し、興国寺城ほか河東地域を占領する。
1569	永禄 12			武田信玄が再度駿河侵攻。興国寺城などを攻めるが、大水のため八幡大菩薩の旗を捨て敗走。
1569	永禄 12		塀和氏統	塀和氏統、興国寺城主に任じられる。
1571	元亀 2			興国寺城に武田勢が侵入するも、塀和氏統らが奮戦し、撃退する。
1572	元亀 3	武田		武田と北条が和睦し、興国寺城を武田が受け取る。
	元亀頃		(保坂掃部)	穴山梅雪が麾下の保坂掃部に興国寺城を守らせる。
1577	天正 5		(向井正重)	向井正重が興国寺城を守る。
1579	天正 7			武田勝頼が三枚橋城を築城。武田と北条の関係が悪化する。
1580	天正 8			駿河湾海戦起きる。武田勝頼、浮島ヶ原を本陣とする。
1580	天正 8			穴山梅雪、興国寺城に天神ヶ尾砦の門を移築するなど、普請を行う。
1581	天正 9			興国寺城に北条家臣大藤政信の軍勢が攻め込む。
1582	天正 10	徳川		織田徳川連合軍が武田勝頼を攻め滅ぼす。
1582	天正 10		曾根昌世	織田信長、曾根昌世に興国寺城と河東一万貫を与え、徳川麾下とする。
1582	天正 10		牧野康成	本能寺の変。牧野康成の家臣稲垣長茂が興国寺城を守る。
1582	天正 10			天正壬午の乱。
1582	天正 10		松平清宗	松平清宗が興国寺城主となり、2000貫、与力50人が与えられる。
1583	天正 11			徳川家康が富士山作衆に興国寺城普請等以外の普請役を免除する(興国寺城の普請)。
1583	天正 11			松平家忠、長久保城を普請する。往路と復路に興国寺城に立ち寄る。
1584	天正 12			小牧長久手の合戦。松平清宗は家清と共に興国寺城を守る。
1585	天正 13			武川衆の人質が興国寺城に入る。武川衆は大久保忠世に属し戦功をあげる。
1589	天正 17			大地震で興国寺城の堀(と二階門)が破損する。
1590	天正 18			豊臣秀吉の小田原攻めが始まる。徳川家康、興国寺城に滞在する。
1590	天正 18			松平清宗は吉原を守り、山口直友が興国寺城を守る。
1590	天正 18			北条氏が滅び、徳川家康が関東へ移封。松平清宗親子は武蔵八幡山城1万石を与えられる。
1590	天正 18			関東移封のため、松平家忠の妻子が一時興国寺城に滞在する。
1590	天正 18	中村(豊臣)	河毛重次	中村一氏が駿河国を与えられ、河毛惣(宗)左衛門重次が城主となる。
1590	天正 18			河毛重次、大泉寺領地と桃沢神社地を安堵する。
1600	慶長 5			会津上杉征伐・関ヶ原の戦い。中村勢は東軍に参加。内藤信成・菅沼定仍が興国寺城を守る。
1601	慶長 6	天野(徳川)	天野康景	天野康景、五千石を増加され、合わせて1万石となり、興国寺城を与えられる。
1603	慶長 8			天野康景が大日不動(現、駿東郡長泉町)へ二石寄進する。
1603	慶長 8			天野康景が本宿村新井堰に十石付け置く。
1607	慶長 12			天野家臣が天領の農民を殺傷し、天野は小田原西念寺に蟄居(逐電)する。
1607	慶長 12			興国寺藩は除封。興国寺城は廃城となる。

石垣が造られたと考えられる年代



伝天守台石垣西端の裏込石の様子 (2024年11月18日撮影)



黒色と黄色の土で造られる土塁の痕跡 (2024年11月18日撮影)



伝天守台石垣西端の石垣の根石 (2024年11月18日撮影)



実は割石で、よく見ればノミの痕も

スカスカに見えますが、長い年月で抜け落ちたもので本来は間に詰める石が入っていました

当時の地面の高さ

地面の下には基礎石が入っています

石を横置きで使っていますが、石垣職人からすれば「邪道」とのこと

地下1.5mまで基礎石が入っていました
基礎石はやはり小ぶりです

伝天守台石垣東端の様子 (令和5年度調査地点) S=1/60



石垣の参考) 浜松城跡 (浜松市)



石垣の参考) 吉田城跡 (豊橋市)